

課題2 活動の担い手

～多様な世代の地域活動への参画に向けて～

多様な世代が活躍できるまちづくり

【1 現状・課題】

- ある地域では、少子高齢化や人口減少社会の中でも、将来にわたって暮らしやすく、多様な世代が共感できる地域をつくるため、世代間の交流が必要と考えています。
- 地域の公民館主催のワークショップに参加した住民グループがまちづくりに取り組もうとしています。
- 地域の中学校では、生徒たちが将来のまちを考え、課題解決に向けた行動力を養う学習を進めています。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 中学生が中心となって、利用者が減少している街区公園でイベントを企画・実施し、子どもだけでなく大人、高齢者も楽しめる遊び場をつくるアイデアをまとめました。
- 公民館で活動する住民グループや地域団体の大人が中学生の思いに共感し、アイデアの実現をサポートしました。
- イベントでは、中学生は、保護者や親子連れがくつろげるよう、飲み物やおやつを提供するカフェを運営したり、小学生などの遊び相手になります。シニア世代は、手芸や紙芝居を披露したり、皿回しなどの遊びや工作の指導者となり活躍しています。

▼イベントの打ち合わせの様子



▼イベントの様子



【3 行政等からの支援】

- 中学校から相談を受けた公民館が、ワークショップの開催などによって大人と中学生の連携を支援しました。
- 公民館が事務局となって地域活動への助成金※1や、学校や公民館による地域と連携した取組への助成金※2に応募し、活動資金を確保しました。
 - ※1 (公財)ひろしま子ども夢財団の広島県子ども夢基金活動助成事業
【助成対象】 子どもに夢を与え、体験を促す活動を企画・実施する団体等
【助成限度額】 10万円
 - ※2 環境省の持続可能な地域づくりを担う人材育成事業、広島県公民館連合会の公民館等活性化モデル事業

【4 これまでの成果】

- 年4回開催されるこのイベントは、参加者が毎回300人を超えるなど地域に浸透し、高校生になったOB・OGも手伝うなど、多世代参加の地域づくりが進んでいます。
- 中学生が地域団体の主催行事を手伝うなど、イベント以外でも連携が広がっています。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、遊び場づくりの担い手となる地域の大人の協力者の発掘や育成、活動資金の確保に取り組もうとしています。
- 公助の取組として行政等では、区役所が中心となって公民館などと情報共有を進め、地域団体と公民館で活動する住民グループとの連携や若い世代との交流、活動資金の確保に向けた助言などに取り組まします。

他地区で展開する際のポイント

- ◎ 多様な世代や主体と連携することにより、住民の地域活動への共感、支援の輪が広がっていきます。

課題2 活動の担い手

～現役世代の地域活動への参画に向けて～

交流イベントをきっかけとした現役世代の担い手の確保

【1 現状・課題】

- ある地域では、現役世代の担い手の確保が課題となっています。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 毎年1回、地域の全団体が協力して、地域の伝統、文化、行事などを披露し、遊びの中で子どもたちに伝承するイベントを開催しています。
- 子どもが参加すれば親世代も参加する、遊びを通して子どもと高齢者のつながりが生まれる、といった思いから、ふれあいをメインテーマとして開催しています。
- 町内会、地区社協、PTA、子ども会、女性会、老人クラブ、体育協会、商店街などで実行委員会を立ち上げ、各種団体等の特性を生かしたアイデアを出し合い、イベントを企画しています。

▼実行委員会の会議



▼イベントの様子



【3 行政等からの支援】

- 地域の自主・自律的な取組です。

【4 これまでの成果】

- 地域を挙げて実施するこのイベントは30年近く続いており、地域内の多世代の住民が交流できる機会となっています。
- イベントの実施メンバーが固定化しないよう、後継者の確保・育成を意識していますが、まずは行事の参加者に積極的に声をかけ、顔見知りになることから始めています。また、イベントの準備を手伝ってくれる人には、買出しなど簡単なことから依頼しています。
- イベントの準備を手伝ってくれた人がその友人にも声を掛けてくれるなど、地域活動の担い手の輪が徐々に広がっています。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、若者や現役世代の意見やアイデアを積極的に取り入れてイベントの魅力を高め、新たな担い手の確保につなげたいと考えています。
- 公助の取組として行政等では、コロナ禍においてこうした交流イベントが実施できない状況が生じていることから、地域からの求めに応じて、イベントに代わる行事の企画などへの助言や補助金等*の活用などの提案を行います。

* “まるごと元気”地域コミュニティ活性化補助金、区の魅力と活力向上推進事業補助金、市社協の地域団体連携支援基金事業費助成金

☞ 他地区で展開する際のポイント

- ◎ 「遊び」など参加しやすいテーマを設定し、人と人とのつながりや多世代の交流に楽しさを感じられるような場を創るとともに、現役世代への働きかけ方も工夫し、徐々に地域活動に関心を持ってもらうことが大切です。

課題2 活動の担い手

～子育て世代の地域活動への参画に向けて～

子育て世代が活躍できるまちづくり

【1 現状・課題】

- ある地域では、無理なく町内会を運営するため、既に町内会で活躍されている高齢の方に加え、活動の担い手を子育て世代まで拡大したいと考えています。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 子育て世代に、町内会イベントは楽しいという体験をしてもらうため、記念品贈呈やゲームなど楽しみ満載の新1年生を祝う会や、手軽な飲み会・育児相談を含む子育て女子会を開催するなど、活動仲間の拡大を図っています。
- 子どものためならがんばれるという親の目線から、子どもが喜ぶ企画(夏祭りにダンスを導入、クリスマス会の開催など)に注力するとともに、下校の早い木曜日午後や夏休みに、民生委員児童委員と連携し、集会所を開放するなど、子育て世代を助ける企画にも取り組んでいます。

活動仲間の拡大
子育て女子会

子どもの喜ぶ企画
夏祭りへのダンス導入

子育て世代の支援
平日等の集会所開放



【3 行政等からの支援】

- 市の”まるごと元気”地域コミュニティ活性化補助金※を交付し、活動内容の充実を支援しました。

※【補助対象】 町内会・自治会、子ども会、地区社協

【補助限度額】 初年度:10万円、2年度:8万円、3年度:6万円、4年度:4万円、5年度:2万円

(取組内容等によって限度額は異なります。)

【4 これまでの成果】

- 子育て世代の活動仲間が増えたことで、地域猫活動や多世代交流ものづくり楽校の開催といった新しい取組が生まれています。まちの活性化によって、若い子育て世代の居住者も増加しています。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、地元企業にも担い手として協力してもらうよう働き掛けたいと考えています。
- 公助の取組として行政等では、担い手確保に向けた企業への働きかけや、従業員の地域活動への参加を促進する企業、地域活動に協力する企業へのインセンティブ付与等、担い手確保につながる方策について検討します。

☞ 他地区で展開する際のポイント

- ◎ 企業やその従業員は本業が優先となるため、参加しやすいよう可能な限り活動の日時等について配慮するとともに、協力実績を町内会だより等で広報するなど、企業にとってもメリットが見い出せるような環境づくりが必要です。
- ◎ 地域の農業従事者や商工会等に働き掛けることも担い手確保には効果的です。

課題2 活動の担い手

～企業の地域活動への参画に向けて～

記念イベントを契機とした地元企業の地域活動への参画

【1 現状・課題】

- ある地域では、各種地域団体の役員の高齢化が進み、地域活動の担い手が不足しています。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 地区の誕生150周年を迎えるに当たり、地区社協、各町内会、地元企業(金融機関、郵便局等)、小中学校、青年団などが参画する組織を新たに作り、記念イベントを企画・実施するとともに、地域の将来を考え、長期的な視点で課題解決策の企画立案に取り組んでいます。

▼記念事業(シンボルツリーの鉢替え)



各家庭でシンボルツリーを育て、その過程をSNS(インターネット上の会員制交流サービス)で共有しています。

▼記念事業(公園のイルミネーション)



【3 行政等からの支援】

- 記念イベントの実施に当たり、市の区の魅力と活力向上推進事業補助金※1を交付しました。

※1【補助対象】3人以上で構成される団体

【補助限度額】初年度:100万円、2年度:70万円、3年度:35万円

【4 これまでの成果】

- 記念イベントで地域全体を盛り上げる事業を企画・実行する中で、町内の企業からも趣旨に賛同が得られ、協賛金のみならず、事業運営に自社のスタッフを携わらせてほしいとの申出があるなど、地元企業との連携が進んでいます。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、地元企業を含む多様な主体が様々なアイデアを出し合い、一過性でなく、地域全体で心のつながりが深まる行事を積極的に取り入れようとしています。
- 公助の取組として行政等では、企業やその従業員のさらなる参画を促すため、地域からの求めに応じて、新たな取組に対する補助金等※2の活用などを提案します。

※2 区の魅力と活力向上推進事業補助金、市社協の地域団体連携支援基金事業費助成金

☞ 他地区で展開する際のポイント

- ◎ 地域の課題やまちづくりビジョンを明確にし、共有することにより、企業と日頃から協力し合える関係を構築しやすくなります。

課題2 活動の担い手

～郷土愛の醸成と将来のまちづくり人材の育成に向けて～

学校・家庭・地域の連携・協働の推進

【1 現状・課題】

- ある地域では、少子高齢化により、地域活動の担い手不足が懸念されています。
- 子どもたちが地域への誇りと愛着を持ち、将来のまちづくりをけん引する存在になっていくよう取組を進める必要があります。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 地域の方々を学習支援者として、中学生を対象とした放課後や夏季休業中の学習会を実施しています。
- 地域の中学生在が家庭・地域と協働して花を育て、育てた花を地域の保育園、幼稚園、児童館などの施設へ配布しています。
- 地域の中学生在が、公民館祭りなどの地域行事でのボランティア活動に積極的に参加しています。

▼学習会



▼ボランティア活動



【3 行政等からの支援】

- 市のまちぐるみ「教育の絆」プロジェクト事業※の指定を受けた中学校の学校協力者会議(PTAや地域団体の代表等で構成)等のコーディネーターが中心となり、学校・家庭・地域が連携・協働して「家庭・地域による教育支援活動」や「学校による地域貢献活動」を実施しています。

※ [1校当たりの活動費] 90万円

[実施校] 全63中学校のうち56校

【4 これまでの成果】

- 学習支援者である地域の方々と関わり合うことで、子どもの社会性が育まれるとともに、地域の方との良好な人間関係が築かれています。
- 地域貢献活動を通じて、子どもたちが地域の方から感謝の言葉や手紙をいただき、地域の一員であるという自覚を持つとともに、地域に貢献しているという充実感を得ることができています。
- 地域行事に子どもたちが積極的に参加することで、地域の活性化につながっています。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、引き続き中学校や家庭と連携し、学習会での支援を行うとともに、子どもたちが地域行事等へ参加できるよう積極的に受入れを行います。
- 公助の取組として行政等では、まちぐるみ「教育の絆」プロジェクト事業の実施校を拡大し、学校・家庭・地域の連携・協働を推進します。

☞ 他地区で展開する際のポイント

- ◎ まちぐるみ「教育の絆」プロジェクトへの積極的な参画によって、将来の担い手の育成や地域の活性化にもつながります。

課題2 活動の担い手

～郷土愛の醸成と将来のまちづくり人材の育成に向けて～

地域ぐるみで子どもたちの夢や目標を応援

【1 現状・課題】

- ある地域では、少子高齢化や若い世代の他地域への流出により、地域活動の担い手不足が懸念されています。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 地域に住んでいる中学2年生を対象とした行事を毎年開催し、子どもたちが発表する夢や目標を地域のみんなで聴き、応援します。
- 行事には地域の町内会・自治会長、学校関係者、行政、保護者も参加し、地域や家庭が一緒になって自己形成していく上で重要な時期にある子どもたちの成長を祝い、自立への支援を行っています。
- 地区の各種地域団体等で構成する協議会が主催し、区長の祝辞や警察署の防犯講演、県警音楽隊による演奏会など、行政とも連携して行事を盛り上げています。

▼行事の様子



【3 行政等からの支援】

- 行事を後援し、区長が来賓として出席し祝辞を述べるなど、積極的に行事に関わっています。
- 市の区の魅力と活力向上推進事業補助金※1を交付し、子どもたちへの記念品の贈呈や行事開催の広報などが行われました。

※1 〔補助対象〕 3人以上で構成される団体

〔補助限度額〕 初年度:100万円、2年度:70万円、3年度:35万円

【4 これまでの成果】

- 子どもたちが自らの生き方や役割を認識し、将来の目標を考える契機や、地域や家族との絆を深めるきっかけになっています。
- 地域で育った若い世代が災害発生時など有事の際に力を発揮しています。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、コロナ禍にあっても行事を全て中止するのではなく、学校での記念品贈呈などできることを行い、行事が途切れないように取り組んでいます。今後も行事を継続するため、子どもたちの発表の様子を動画で配信するなど、コロナ禍でも開催できる方法の検討を行います。
- 公助の取組として行政等では、行事の継続を支援するため、地域からの求めに応じて、開催方法などへの助言や補助金等※2の活用などの提案を行います。

※2 区の魅力と活力向上推進事業補助金、市社協の地域団体連携支援基金事業費助成金

他地区で展開する際のポイント

- ◎ 地域ぐるみで子どもたちをお祝いすることで、郷土愛の醸成を図ることができます。
- ◎ 親世代にも地域とのつながりを感じられる行事にすることで、若い世代の担い手の確保が期待できます。

課題2 活動の担い手

～町内会の加入促進に向けて～

地区社協による町内会等の紹介冊子の作成

【1 現状・課題】

- ある地域では、様々な要因があって町内会加入率が年々低下しています。
- 町内会は加入促進の必要性を感じているものの、負担に感じています。
- こうした状況にあって、町内会未加入者を対象とした活動に町内会費を使うことは難しい状況です。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 地区社協が中心となって、町内会等の活動を紹介する冊子を作成し、町内会未加入世帯を含む地域の全戸へ配付しました。
- 冊子は、①高齢者、②若い人、③子どもたち、④困っている人、⑤自分たち(防災等)というカテゴリ分けがされており、地域の全世代に役立つ内容としました。
- 町内会や社協の活動の紹介だけでなく、各種団体の活動、公民館のサークル活動、児童館などの施設や防災マップなど、地域住民に得になる情報を幅広く載せています。

▼町内会等の紹介冊子



【3 行政等からの支援】

- 地域の自主・自律的な取組です。

【4 これまでの成果】

- 地域の各種団体等への取材を時間をかけて丁寧に行うことで、地域の連携強化につながりました。
- 町内会の未加入世帯には冊子の配付に併せて町内会の入会案内を配っており、冊子が話のきっかけとなるので、町内会加入の勧誘が行いやすくなりました。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、他地区でも同様の取組を展開できるよう、要請があればノウハウを提供したいと考えています。
- 公助の取組として行政等では、こうした活動が広がっていくよう、市・区役所の関係部署や市・区社協が積極的に周知に努めます。

また、団体間の協力体制づくりを支援するため、地域からの求めに応じて助成金等※の活用などを提案します。

※ 市社協の地域団体連携支援基金事業費助成金、「まるごと元気」地域コミュニティ活性化補助金

▼町内会の入会案内

他地区で展開する際のポイント

- ◎ 地域でどのような活動が行われているのかわからないため、町内会に加入しないという人もいます。町内会などの活動や役割を「見える化」し、住民の地域活動に対する不安を解消したり、関心を高めていくことが大切です。
- ◎ 町内会だけに加入促進活動を任せるのではなく、地区社協が協力して地域ぐるみの活動とすることで、町内会役員の負担軽減や地域の連携強化へとつながっていきます。

課題2 活動の担い手

～地域住民の生活支援に向けて～

町内会を基本とした日常生活のサポート

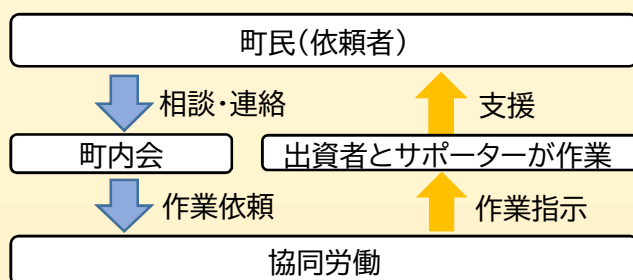
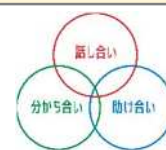
【1 現状・課題】

- ある団地では、65歳以上が3割を超え、高齢者支援等が必要ですが、活動の担い手がおらず地域活動に限界を感じています。
- 地域の人々が絆を深め「住んで良かった、住み続けたい」まちづくりを進めるためにお互いに困ったことを助ける仕組み作りを目標としました。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 話し合いの中で、市が推奨している協同労働^{※1}の仕組みに着目し、地区社協、町内会をはじめ学区内の全団体が支援母体になって協同労働団体を新たに設立しました。
- 協同労働団体では、網戸の修復や包丁研ぎなど日常生活の困りごとのサポートを行っています。
- 支援は町内会を通じて行われる仕組みとなっています。
- 高齢化による移動困難者の増加の現状やニーズを踏まえ、新たに病院や買い物に付き添う移動支援サービスを開始しています。

※1 みんなが自らできる範囲で出資し、みんなが対等な立場でアイデアを出し合って人と地域に役立つ仕事に取り組む仕組み。
地域課題の解決を全てボランティアとして行うのではなく、活動に従事した人が一定の収入を得ることができる。



【3 行政等からの支援】

- 市の協同労働モデル事業^{※2}や県共同募金会の地域テーマ募金^{※3}による支援を行いました。
- ※2 ① コーディネーターの派遣
経験豊富なコーディネーターが事業の立上げに向けた勉強会の開催や補助申請書類の作成支援などを行うとともに、立上げ後も継続して助言します。
- ② 補助金の交付
3年以上継続が見込める事業の立上げ経費に対する補助金を交付します。
【補助対象団体】 構成員が4人以上かつ半数以上が60歳以上の団体
【補助限度額】 100万円(補助率1/2)
【補助対象経費】 事務所開設費、物品購入費、広報宣伝費、人件費等
- ※3 地域の住民団体等が、区社協と協働し、地域の様々な課題を解決するプロジェクトに対し、1月～3月期に地域で集めた募金額に応じて共同募金会が配分金を加算する仕組み(上限300万円/年度、最大3年度)。

【4 これまでの成果】

- 協同労働の仕組みで一定の収入を得て支援活動に参加する人数は、設立当時と比べ約2倍に増え、地域活動の担い手の確保につながっています。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、日常生活サポートを行う中で依頼者の生活状況などを見て、必要に応じて地域包括支援センター等へ情報提供し、必要な支援につなげていくなど、住民がいきいきと生活するための取組を行います。
- 公助の取組として行政等では、協同労働団体が継続的かつ安定的に運営できるよう、引き続き地域からの求めに応じてコーディネーターの派遣などを行います。

他地区で展開する際のポイント

- ◎ 困りごとのある人が町内会に相談する仕組みとすることで、町内会が住民の状況を把握しやすくなり、住民同士の絆が深まっています。

課題2 活動の担い手

～マンションが多い地区における町内会の活性化に向けて～

マンション中心の町内会でのまちづくり

【1 現状・課題】

- ある地域では、マンションが立ち並び、住民は多いもののマンション間の交流が少なく、町内会の加入率も低い状況です。
- 行事内容もマンネリ化し、いつも同じ参加者となっています。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 町内会役員が中心となって全戸にアンケートし、支援してほしいことと支援できること、地域にあったらいいと思うものなどを調査しました。
- アンケート結果を踏まえ、住民ニーズにあった活動を町内会の会員だけでなく、町内会未加入の住民も含めた皆で楽しみながら実施できるよう、市が推奨している協同労働^{※1}の仕組みを取り入れることにしました。
- 「居場所づくり」、「困りごと支援」、「にぎわいづくり」、「環境保全」の4分野の活動を行う団体を新たに設立し、活動に関心がある人や役立つスキルを持つ人と協力して、まちづくりに取り組んでいます。

※1 みんなが自らできる範囲で出資し、みんなが対等な立場でアイデアを出し合って人と地域に役立つ仕事に取り組む仕組み。
地域課題の解決を全てボランティアとして行うのではなく、活動に従事した人が一定の収入を得ることができる。



【3 行政等からの支援】

- 市の協同労働モデル事業^{※2}により支援しました。

※2 ① コーディネーターの派遣

経験豊富なコーディネーターが事業の立上げに向けた勉強会の開催や補助申請書類の作成支援などを行うとともに、立上げ後も継続して助言します。

② 補助金の交付

3年以上継続が見込める事業の立上げ経費に対する補助金を交付します。

〔補助対象団体〕 構成員が4人以上かつ半数以上が60歳以上の団体

〔補助限度額〕 100万円(補助率1/2)

〔補助対象経費〕 事務所開設費、物品購入費、広報宣伝費、人件費等

【4 これまでの成果】

- 町内会と協同労働団体が連携することによって、町内会の新規加入や町内会活動の協力者が増えるなど、徐々に町内会が活性化しています。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、現役世代の参画促進による担い手の確保や、竹林整備で生じた竹チップの活用などによる自律運営を目指しています。
- 公助の取組として行政等では、令和2年度に成立した労働者協同組合法の内容(3人以上の構成員、年齢要件なし等)を踏まえ、協同労働の仕組みの周知と新規団体の立上げに取り組めます。また、既存の協同労働団体が継続的かつ安定的に運営できるよう、他地区の成功事例のノウハウ提供などを積極的に行います。

☞ 他地区で展開する際のポイント

- ◎ 住民の困りごとや住民ニーズを把握するには、全戸アンケートなどが有効です。
- ◎ 町内会だけでは全ての地域課題解決に取り組むには限界があり、補完する形で協同労働の仕組みを活用すれば、負担感よりもやりがいを感じられる活動につながります。

課題2 活動の担い手

～多様な主体の地域活動への参画に向けて～

住民有志が創るまちづくりプロジェクト

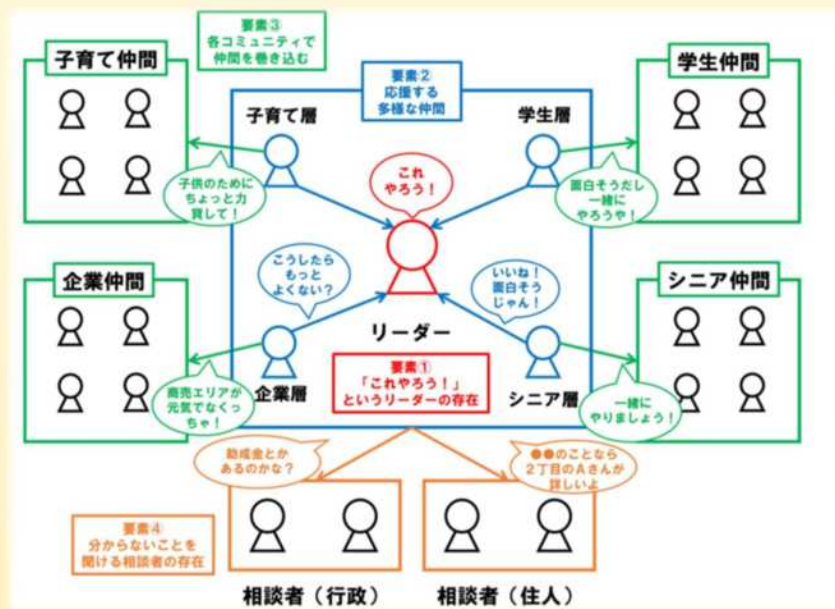
【1 現状・課題】

- ある地域では、時代の変化の中で複雑かつ多岐にわたって生じる課題に対応するために、住民がより主体的にまちづくりを行っていく必要性を感じていましたが、活動への関わり方が分からない、あるいは、一人の言動では何も変えられないとの想いを持つ住民もいました。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 地域貢献活動の一環としてまちづくりに取り組む青年団体が中心となって、地域住民に地域の課題や願いについてアンケートを行いました。
- アンケートに加えて、ヒアリングも行い、地域の課題が住民同士のつながりや防災であることが確認でき、「つながりを育む防災」をテーマとした事業を企画・実施していくこととしました。
- 多様な主体のまちづくり活動への参画に向け、地域の各所にポスターを掲示するとともに、町内会、地区社協、商店会、学校、企業などの協力を得て事業を行うメンバーを募集し、プロジェクトチームを組織しました。

▼プロジェクトチームの仕組み



【3 行政等からの支援】

- 区役所職員がプロジェクトチームの相談先として関わり、補助金申請の支援など行政の立場から協力することとしています。

【4 これまでの成果】

- 募集方法を工夫して幅広くプロジェクトメンバーを募ったことで、多様な層(学生層、子育て層、企業層、シニア層)で構成されるチームとなり、住民主体のまちづくりに向けた土壌ができました。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、回覧板、SNS(インターネット上の会員制交流サービス)やYoutubeなどを活用してプロジェクトチームの検討状況を発信し続けることにより、地域住民をはじめ、様々な地域の主体の関心を高め、参画を促進したいと考えています。
- 公助の取組として行政等では、地域からの求めに応じて補助金※の活用などを提案します。

※ 区の魅力と活力向上推進事業補助金

他地区で展開する際のポイント

- ◎ 地域全体で課題を共有し、多様な主体の意見を取り入れながら取組を進めることにより、まちづくりに対する当事者意識が醸成されます。また、こうした取組の継続により、主体的なまちづくり活動が地域に根付いていくことも期待できます。

課題2 活動の担い手

～多様な主体の地域活動への参画に向けて～

地域活動に関心を持ってもらうために

他都市事例

【1 現状・課題】

- ある市では、地域活動の参加者が固定化、高齢化しています。
- 特定の分野で活動する団体やグループと連携したい、また、住民の中には、地域活動にどうやって参加したらよいか分からないという人がいます。
- 地域団体では、そうしたグループとの連携を進めたい、また、新たな担い手を発掘したいと考えています。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 住民や地域団体の活動者が行政主催のまちづくりミーティングに参加し、市内の様々なまちづくり団体や、まちづくり講座に参加している人などと活動内容を発表し合いました。
- また、グループごとの話し合いやパネルディスカッションを通じて、活動を始めたきっかけやメンバー集めの方法、他団体との連携内容、住民に参加してもらうための工夫などについて情報交換しました。

▼ミーティングの様子



【3 行政等からの支援】

- 多くの人に興味を持てるよう、防災、高齢者サロン、子どもの学習支援など様々なテーマでまちづくりミーティングを開催しました。
- 学生や子育て世代などが参加するゼミ形式の講座も主催し、公園のゴミが気になる、子ども食堂の活動にボランティアとして参加してみたいなど、自らの関心事から暮らしにまつわる地域の機能を学び、体験する機会をつくりました。また、受講生がまちづくりミーティングに参加し、実践報告をしました。
- NPO法人の協力を得て、まちづくりのミーティングやゼミを企画し、地域や世代を超えて、参加者同士が学び合える場となるよう取り組んでいます。

【4 これまでの成果】

- 地域団体に活動している人は、まちづくりミーティングで様々なアイデアや世代間の考え方に触れ、より多くの人に地域に興味を持ってもらうヒントが得られました。
- まちづくりミーティングの参加者から地域団体の活動に参加する人が出てきています。

この取組のポイント

- ◎ 地域団体同士の情報共有や、地域団体が多様な主体とつながる場づくりが重要です。
- ◎ 地域団体同士だけでなく、関心のあるテーマで活動したい人とも、お互いのできることでできないことを共有し、それぞれの特徴や良さを生かした活動をどのように進めたらよいか話し合える場が重要です。
- ◎ 地域活動に関心はあるが、活動していない人を巻き込む仕掛けが必要です。

課題2 活動の担い手

～時間や場所に縛られず、幅広い世代が参加しやすい活動～

犬の散歩を通じた顔の見える地域づくり

【1 現状・課題】

- ある地域では、時間や場所に縛られず、できる時にできる範囲で、幅広い世代に参加してもらえる新しい形の地域活動を考えています。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 地区社協の女性を中心としたグループが、地域には犬を飼う住民が多いことに着目し、犬の散歩をする時に子どもの見守り活動を行う「わんわんパトロール」を発案しました。
- 地域内の約80か所の掲示板に活動を紹介するポスターを掲示し、会員を募集しました。
- 子どもたちにも見守りをしている大人であることが一目でわかるよう、「わんわんパトロール」のロゴを作成するとともに、会員にはお散歩バッグなどのグッズなどを配布して、連帯感を育みました。
- 散歩の途中で交流できる場として、公園でカフェを開いたり、犬とともに楽しめるゲームなどを企画したお祭りを開催するなど、地域での顔見知りを増やしなが、災害時などにも声を掛け合える環境づくりを進めています。

▼見守りの様子



▼グッズ



【3 行政等からの支援】

- 市の「まるごと元気」地域コミュニティ活性化補助金※1を交付し、グッズ作成やイベントの実施を支援しました。

※1〔補助対象〕 町内会・自治会、子ども会、地区社協

〔補助限度額〕 初年度：10万円、2年度：8万円、3年度：6万円、4年度：4万円、5年度：2万円

(取組内容等によって限度額は異なります。)

【4 これまでの成果】

- 時間や場所に縛られず、参加者に負担が少ない活動であることから、約20名で始めた活動は約2年で、わんわんパトロール会員約60名と、犬は飼っていないものの散歩中に見守りを行う会員約40名による活動へと広がり、幅広い世代の地域活動への参加を促進することができました。
- 会員同士では声の掛け合う雰囲気ができ、子どもたちも犬を通じて、大人と親しく会話しており、顔の見える地域づくりが進んでいます。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、会員の散歩ルートを確認し、子どもの見守りが手薄になっている場所を把握するなど、更なる発展的な取組を検討しています。
- 公助の取組として行政等では、地域からの求めに応じて、取組への助言や補助金等※2の活用などの提案を行います。

※2 “まるごと元気”地域コミュニティ活性化補助金、区の魅力と活力向上推進事業補助金、市社協の地域団体連携支援基金事業費助成金

他地区で展開する際のポイント

- ◎ 買い物、通勤・通学などをしながら防犯や見守りを行う「ながら活動」を取り入れることで、これまで地域に関わっていなかった人も、ゆるやかに地域活動に関わることができ、参加者の裾野を広げることができます。